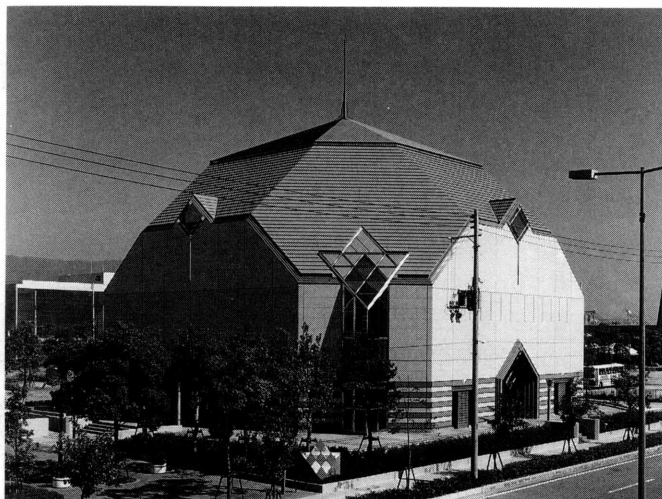


平成5年度 BELCA 賞 ベストリフォーム・ビルディング部門 表彰作品

UCC コーヒー博物館

所在地 神戸区中央区
用途 博物館
竣工年度 1981年
改修年度 1987年
所有者 UCC 上島珈琲(株)
設計者 (株)竹中工務店
施工者 (株)竹中工務店



〔審査評〕 昭和56年（1981年）、神戸市の沖合いに大規模な埋立てが行われ出現した新しい人工島に、21世紀への新展開が期待される新都市の誕生を祝って、ポートピア博覧会が開催された。数あるパビリオンの中でも UCC コーヒー館は、その異彩を放つ外観で、真っ白い大きな把手のついたコーヒーカップそのものというパビリオンのアイデアは、大変印象深いものであった。

その後十数年を経て、関西地区でも特別に整備された質の高いビジネスゾーンとして評価の高いこのポートアイランドの南公園地区で、あのコーヒー館がどのように変身したのか、審査員には大変興味のある点であった。新装になった博物館の外観については、昔のパビリオンの面影の痕跡もとどめていない全くの新しいデザインに一新されている。博覧会建築としての表現から、現在の高層建築群に囲まれた文化ゾーンの核となる博物館としての表現への見事な転身と言えよう。内部の展示空間は、博覧会当時の主要イメージと動線がそのまま温存され、懐かしく思い出される。新しく設けられたトップライトや新装備の空調設備等が、現在の展示空間の質を高めているようだ。

パビリオンとしての計画時点で、将来は博物館への大改修という構想が確定し、進められたということであるが、周辺の現況に合わせての建築物としてのグレードの設定、博物館として要望とされる新しい機能、各種スペースの盛込みのため、埋立地としての地盤も配慮して、屋根材・外装材の軽量化・パネル化によって新技術が適切に活用されて、精度の高い施工となっている。

今回の専門部会に於いても特に論議されたのは、BRB 部門として建築の外観が全く過去の面影をとどめていない程に大改修された当博物館をどう評価するかであった。

このコーヒー博物館に於いては、施主側の説明では、パビリオンとして建築段階から企業博物館への十数年間の一貫したコーヒー文化の普及・啓蒙・研究の場として強力な主張が内部空間には温存され大切にされてリフレッシュされており、博物館への変身した外観にも内部空間とのデザインの統一が十分に配慮されていることから、保存再生には建築物のハード面と、建物をもつ固有の歴史・空間体験や人々との記憶というソフト面での保存・再生も重要であるという認識から高い評価を得たものである。